

外部講師を招いて、インパクトとリアリティーのある授業を

新田暁高等学校 船橋聖一

「世界遺産・学校キャラバン」を招く

5月に県の世界遺産推進課から各高校の校長宛に「世界遺産・学校キャラバンについて」という文書が届き教科主任である私に回ってきました。「群馬県では、児童生徒が富岡製糸場と絹産業遺産群や世界遺産の制度について楽しく学び、その正確な知識を身につけ、郷土の歴史や産業文化に対する関心を深めることで、世界遺産登録推進運動の一層の前進をはかるため、希望する学校においてキャラバンを実施します」と書いてある。説明が60分、上州座繰り体験が30分。これは2時間続きでやっている郷土史にぴったりだと思い、すぐに世界遺産推進課に電話しました。

こうして10月11日に学校キャラバンを実施しました。世界遺産課から1名、伝道師協会のボランティアの方が6名も来ていただき、フォーラムの瀧口代表、校長他職員数名が見学しました。



伝道師協会のボランティアと対話

お話は生徒たちにはちょっと難しかったようですが、お湯に浮かべた20個ほどの繭玉から20本の糸を繕りながら糸を引いていく体験は、全員が面白がっていました。鍋に張ったお湯全体をゆっくり掻きまわして回転させると繭玉も回転して糸が繕れるのです。また、糸を「引く」

のと糸を「紡ぐ」の違いも教えてもらいました。ひとりずつの体験が終わると5つのグループに伝道師の方がつき繭玉を配りました。生徒はさわったり、振ったり、カッターで切ったりしながら話をよ〜く聞いていました。



座繰りの体験

Aくんの感想

「今日の学習はいつもと違って先生や人がたくさん来てびっくりしました。繭や生糸はこんなにも深い歴史があるとは思っていませんでした。昔の日本に蚕がいてくれたから近代化が進んで、今の日本につながっていることを感じました。座繰りは簡単かと思っていましたが意外と難しく、左右の手で別のことをしなくてははいけない。生糸ができていくのを見て感じて、楽しくて感動しました。」

Bさんの感想

「繭の入っていたお湯は肌にいいことがわかった。繭の中に入っているさなぎも食べられる（お酒のおつまみ）と知ってびっくりした。繭も1個〇〇円することがわかった。繭をもらえてよかった。」

「県消費生活センターの伊藤理恵さんを招く」

「学校キャラバン」の案内があった同じ5月に県生活文化スポーツ部消費生活課長から「消費者被害防止出前講座の案内について」が学校に来ました。卒業を間近に控えた3年生の学年集会などで実施したことがありましたが、今年から早めに案内を出すことにしたそうです。7月11日の現代社会の授業（3年24名）の2クラスに伊藤理恵さんが来てくれました。実際のトラブルや解決法のお話はリアリティーがあり、生徒たちはネットショッピングでの経験を語りだしました。

私も授業で取り上げてきましたが、相談でき

る人が実際にいて、かつ目の前にいるという事実の重みが、生徒たちの記憶に深く刻まれるのだと思います。

伊藤さんからのメール

「先日は当課の出前講座を授業に取り入れていただきありがとうございました。また、丁寧なお葉書をありがとうございます。私も本当に気持ち良く授業ができたこと、先生と生徒の皆様感謝しています。さらに身近に高校生がいないので、私も勉強になりました。課題として、高校生に『消費生活センター』を知ってもらわなければと感じました。」

「前橋地方検察庁の検察官と広報官を招いて生徒といっしょに模擬裁判」

6月末前橋地方検察庁次席検事から「裁判員制度を含む法教育に関する教員研修の実施について」という案内が来ました。8月6日にこの研修会に参加したら、県内から20名ほどの小中高の教員が参加していました。検察官、弁護士、前橋刑務所処遇部長、少年鑑別所専門官、保護観察所課長のみなさんのお話はそれぞれに興味深かった。広報官の星野氏が法教育の出前授業をアピールしていたので、私は研修会が終わってから実施の相談を持ちかけたら「実施の相談がひとつぐらいないかなあと期待していた

んですよ」と嬉しそうに言いました。校長に相談したら「是非やってください」と言うので、星野氏と日程や内容を詰め、11月6日（水）の2時間続きの倫理の授業で「模擬裁判」を行います。10月16日（水）は台風の影響でこの倫理の授業にはいつもの半分の8人しかいません。そこで「模擬裁判」の話をして8月の研修会の後でもらった「模擬裁判」の原稿を見せたら、生徒たちは「俺は裁判官」「私は弁護士」「じゃあ、被告人はAくん」などと言いながら原稿を声に出していました。



私の今年の担当科目は地理A（3年24名）2クラス、現代社会（3年24名）2クラス、倫理（3年16名）、郷土史（2年16名）、世界史A（2年39人）、世界史A（1年40人）です。

他の教員との共通テストもやっていないし、ワークシートもつくらずに、私の関心のあることが生徒の興味を引くように授業を考えています。通勤の自転車をこぎながら考えていることが多いです。生徒の私語も多いですが、私の私語のほうが多いかもしれません。そんなスタンスなので、こういう授業もやりやすいのだろーと思います。

時には外部の講師と連携して行う授業は、生徒にとって刺激になり好評です。社会科の教師が社会の全てに精通しているとは限りません。学内だけで力まずにもっと学校外の施設や専門家のちからを借りれば生き生きした学びの機会を創れるのではないのでしょうか。